

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	こうべだいがくふぞくちゅうとうきょういくがっこう						②所在都道府県	兵庫県	
27～31	①学校名	神戸大学附属中等教育学校								
③対象学科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	○全日制課程・普通科 ○後期課程（4～6年）在籍生徒全員（左表の人数）をSGH対象とする		
普通科	144	193	194	172	138	137	978			
		※前期課程生徒（1～3年）は予備対象								
⑥研究開発構想名	地球安全保障への提言を目指す「グローバルキャリア人育成神戸モデル」									
⑦研究開発の概要	<p>国立大学附属学校及びユネスコスクールである特色を活かした次の3点を核とする「グローバルキャリア人育成神戸モデル」の開発と実践</p> <p>①課題研究を核とする教科横断型体系的グローバル人材育成カリキュラムの開発</p> <p>②国内外での圧倒的なグローバルアクションプログラムの実施</p> <p>③高大一体による実践を支える確かな調査研究の推進</p>									
⑧研究開発の内容等	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校は「優れた課題発見力を持ち、世界の中で自己を位置付け、文化理解と行動を踏まえて、国際協力による関係構築を積極的に行おうとする『グローバルキャリア人』」を「グローバル・リーダー」と位置付け、その育成を教育目標に掲げている。</p> <p>現在のグローバル社会の諸課題を解決するには、「地球安全保障」の実現を図ることが不可欠であり、本事業においては、次の3観点を核として、生徒のグローバルキャリア力を総合的に向上させ、高校生の視点に基づく「地球安全保障への提言」を発信させる。</p> <p>①課題研究を核とする教科横断型体系的グローバル人材育成カリキュラムの開発</p> <p>②国内外での圧倒的なグローバルアクションプログラムの実施</p> <p>③高大一体による実践を支える確かな調査研究の推進</p> <p>これによる『世界の課題を自ら発見・探究し、具体的な解決を提案できる次代を担う人材を育成する「グローバルキャリア人育成神戸モデル」の開発』を、本事業の目的とする。</p>									
	⑧-1全体	<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は「ユネスコスクール」並びに「SGH アソシエイト校」としてグローバル教育に注力しており、神戸大学との緊密な連携をその最大の特徴としている。これまでの教育実践並びに生徒のアンケート調査等の結果、「総括的取組が不明確」「高次元の指導体制や発表形態の整備」「教科教育改革」「各種事業の整除」といった課題が明らかになっている。</p> <p>そこで、次の3点を本研究開発の仮説とし、「グローバルキャリア人育成神戸モデル」の開発によってグローバル・リーダーが育成され、これらの課題が解決できると考えた。</p> <p>①「地球の安全保障」をキーワードに、「課題研究」Ⅰ（4年）－Ⅱ（5年）－Ⅲ（6年）として系統的に実施し、高次の課題発見力及び国際対話力を育成する。</p> <p>②カリキュラム再編をとおして、グローバルキャリア人に必要な文化理解・幅広い教養を含む資質・能力・技能を育成する。</p> <p>③神戸大学や国際専門機関等の多彩な支援を得ながら、高大一体運営の下で、各種事業を推進する。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>SGH ホームページを開設するとともに、本校文化祭等での発表・掲示に加え、本事業の各種グローバル事業や公開研究会等における発表及び報告書の作成・送付による成果の普及を行う。さらに、神戸大学との連携により、大学ホームページへの掲載、海外交流行事及び学園祭等での発表、オープンアカデミーでの掲示等による成果の普及に取り組む。</p>								

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 ○全体テーマ：『神戸から発信する「地球の安全保障」への提言』 ○4研究領域：震災・復興とリスクマネジメント／国際都市「神戸」と世界の文化／ 提言：国際紛争・対立から平和・協力へ／グローバルサイエンスと拠点都市「神戸」</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 ①「課題研究」：「課題研究Ⅰ」ではグループ研究による研究基礎力の養成に取り組み、 「課題研究Ⅱ・Ⅲ」では個人研究による課題の探求、個人論文並びに英文サマリーの完成及びプレゼンテーション発表を行うとともに、3年間を通して「課題研究アクションプログラム」と連動することにより、地球の安全保障に関する認識の深化を図る。 ②「課題研究アクションプログラム」：研究意欲の向上並びに国内外の高校生との交流の促進を図るとともに、課題研究の成果を発表する場として国内外でのワークショップ並びにフォーラム等を開催する。特に「高校生グローバルフォーラム」は、本事業の総括的取組として、EUやASEAN等の世界の地域連合をテーマに、企画・交渉から開催まで生徒自身の手で実現させることで、「グローバルキャリア力」習得の集大成とする。 ③「課題研究を支える学校設定科目等」：課題研究を高いレベルで実施するために、学校設定科目「国際理解」及び教科「ESD」を教育課程に設ける。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 ①「学校設定科目『国際理解』の設置」：本事業における「課題研究」の総合化を図るため、現行の「現代社会」2単位のうち1単位を削減し、1単位科目「国際理解」を置く。 ②「教科『ESD』の開設」：生徒の理解促進を図るため、各教科等で取り扱われている「持続可能な開発のための教育」の内容を合科的に学ぶ教科「ESD」を置く。</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ①「教育課程の整備」：教科の枠を超えた領域の編成、教科目標の再設定及び共同探究学習方法による授業改革を進め、「グローバルキャリア力」育成の一層の推進を図る。 ②「英語教育改革」：授業の高度化、外国人との交流機会の増加及び英語による研究発表による改革を継続的に実施し、世界に発信できる英語力を習得させる。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 該当なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ○「課外活動の再編・体系化」：宿泊行事や交流活動等が「グローバルキャリア力」の養成に寄与するよう、課外活動を見直し、体系的に再構成する。 ①「KMGC グローバルキャリア研修旅行」：生徒の発達課題を踏まえ、日本の歴史・伝統文化への理解促進に資する「グローバル&ローカル」な視点を盛り込んだ宿泊行事を実施することにより、グローバルシティズンシップの育成を図る。 ②「KMGC 異文化交流事業」：帰国生並びに留学生の受入れ等により異文化理解交流を日常的に促進するとともに、オックスフォード大学並びにケンブリッジ大学の学生との交流ではグローバルな課題について学習する。 ③「KMGC グローバルセミナー」：グローバル人材に必要な教養及び資質の形成に資するセミナー（3形態：基礎／リーダー／連続リレー）を開催する。 ④「KMGC 国際交流ワークショップ」：地球規模の課題等に関するワークショップを充実・発展させ、「神戸大学留学生」及び「JICA 研修生」と英語で議論する。 ⑤「KMGC 自治組織」：生徒の自発性の涵養、将来像の明確化に資するため、生徒会の下部組織として「グローバルキャリア局」を創立し、トップリーダー育成の場とする。 ⑥「進路相談体制の整備」：進路指導部に担当者を配置し、留学や海外大学への進学など、生徒のグローバルキャリアデザインの支援体制を整備する。</p> <p>◇神戸大学との「グローバル選抜」による高大接続研究：神戸大学主体の高大連携・接続の在り方に関する研究であり、本事業の深化・発展及び地域教育の推進に寄与する。</p>
<p style="text-align: center;">⑨その他 特記事項</p>	<p>現在「グローバルな時空間認識」の育成に資する新科目「地理基礎」「歴史基礎」について「研究開発学校」指定(25～28年度)を受けており、内容面で本事業との相乗効果が見込まれる。運営面では、両事業を着実かつ適切に推進するため、明確な分業体制を構築する。</p>

ふりがな	こうべだいがくふぞくちゅうとうきょういっくがっこう	指定期間	27～31
学校名	神戸大学附属中等教育学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	410人
	SGH対象生徒以外:		142人	280人	人	人	人	人
目標設定の考え方: Kobeプロジェクト(総合の時間), クローナルセミナー, 国際交流での「社会貢献」「自己研鑽」をはじめとした取組								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		42人	38人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 本校主催のカナダ海外研修(任意), 文科省留学促進事業(シアトル, プリスベン)参加及び個人研修を含めた生徒数								
将来留学したり, 仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	77%
	SGH対象生徒以外:		46%	51%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 将来の人生設計に関するアンケート調査を実施。4年対象者の70%, 5, 6年対象者の80%以上を想定								
公的機関から表彰された生徒数, 又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	35人
	SGH対象生徒以外:		10人	21人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 英語チャーチル杯, ディベート大会, 模擬国連, 模擬安保理及び地理オリンピック等を想定								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1~B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	15%
	SGH対象生徒以外:		2%	3%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英検準1級, GTEC Grade6, TOEFL-iBT 76以上を想定								
学校外で日常的に外国人との交流や英語情報(海外放送, 英字新聞等)に触れる機会のある生徒の割合								
f	SGH対象生徒:							80%
	SGH対象生徒以外:		2%	33%				
目標設定の考え方: 生徒への意識啓発を行った上で, アンケート調査を実施								
英語以外の言語に触れる生徒数								
g	SGH対象生徒:							60人
	SGH対象生徒以外:		0人	40人				
目標設定の考え方: グローバルセミナーの開催(英語以外の言語入門)								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
--	------	------	------	------	------	------	------	-----------

国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	卒業生不在	卒業生不在	%	%	%	%	%
目標設定の考え方:「グローバル人材育成推進事業」、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」、「大学の世界展開力強化事業」に採択されている大学, 大学憲章等において国際化を掲げ, 実践している大学への進学者予測数								

海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	3人
	SGH対象生徒以外:	卒業生不在	卒業生不在	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外大学進学者数								

SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 大学入学後の追跡調査								

大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	85人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大学入学後の追跡調査								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	190人
目標設定の考え方: KMGCグローバルキャリア研修旅行, 異文化交流事業(国外), 海外高校生フォーラム 参加延人数								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	149人	142人	人	人	人	人	人	380人
目標設定の考え方: KMGC在留生フォーラム, KMGC異文化交流事業(国内), グローバルセミナー, 国際交流ワークショップ 参加延人数								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	2校	校	校	校	校	校	4校
目標設定の考え方: KMGC異文化交流事業(国外)における交流校								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	24人	40人	人	人	人	人	人	500人
目標設定の考え方: 研究開発単位A: KMGC「課題研究の時間」, 研究開発単位B: KMGC「課題研究発表」, 研究開発単位C: 「課題研究を支える学校設定科目等」にかかわった大学教員等及びKMGCグローバルセミナー講師								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	10人	10人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: KMGCグローバルセミナー講師(キャリアセミナー, リーダーセミナー, 連携リレー講座等)								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	12人	38人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方: 1.d(先述)参加者数, KMGC海外高校生フォーラム及び学内フォーラム参加者数								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	10人	13人	人	人	人	人	人	45人
目標設定の考え方: 帰国生, 留学生受入, 短期間交流を含む交流校の受入及びグローバルフォーラム参加者を含む								
先進校としての研究発表回数								
h	3回	3回	回	回	回	回	回	4回
目標設定の考え方: 研究授業発表, 課題研究発表・中間発表, グローバルワークショップ等								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	○						○
目標設定の考え方:								
世界を視野においた多元的思考が習慣化された生徒の割合								
j	-	-						60%
目標設定の考え方: 本校独自開発の「グローバルキャリア力自己診断アンケート」による。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)※後期課程生のみ	286	423	450	480	500	480	410
SGH対象生徒数			450	480	500	480	410
SGH対象外生徒数			0	0	0	0	0